

えんぽとたんぽの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 217 号	2019年8月25日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠
---------------------------	-------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

—7月27日（土）会員15名と体験者2名（中本会員紹介）が参加し、観察路の草刈り、電気柵設置準備、清瀬峡の清掃、倉庫の整理の作業を実施しました。
作業前には、原田会長より水車復旧費用について説明がありました。
なお作業終了後には、16名が参加し暑気払いを行いました。

—8月3日（土）親子自然観察隊は「水棲動物観察」を行いました。ビオトープそばの須賀河内川を上るグループとビオトープ内のグループに分かれて観察しました。とても暑い天気でしたが、子供たちは元気よく楽しんでもらったと思います。観察後の種類の同定では、関根リーダーの説明後に、川に戻しました。その後に、カレーライスとスイカを食べてもらって終了しました。参加者は、親子自然観察隊（親11名、子15名）、外来者3名、会員11名でした。

—8月17日（土）会員13名が参加し、草原ゾーン・観察路の草刈り、田圃の虫取り、刈り取った草の除去・運搬の作業を実施しました。作業前には、イベントに用いるテントの購入等について説明がありました。

—8月24日（土）会員12名および観察隊一家族（2名）が参加し、駐車場の草刈り、ヨケジの除草、資材置き場の整理、土嚢づくり（除去砂を用いて）の作業を実施しました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎来訪者

予定はありません。

◎行 事

—9月 1日（日）維持活動（草刈り）

—9月 8日（日）親子自然観察隊（秋の昆虫）

—9月28日（土）維持活動（草刈り、稲刈り準備）

3. 来訪者の声

今回はありません。

4. 会員の声 「ビオトープでの稲作体験」 （原田満洲夫 記）

今年も稲作が順調に生育しています。特に近い将来食糧不足のために少しでも稲作を経験しておいてほしいため子ども会や幼少児童に募集をかけ最低1) 田植え 2) 稲刈り 3) 収穫（脱穀・臼ひき・精米）を体験して頂く事を当つくる会は勧めている。その他稲作をするためにはたくさん農作業があることは口答で教え記憶に残して頂く事しかできない。

ビオトープでの稲作はいろいろな問題が発生する一つ上げれば今回8月の初めからイナゴが大量に発生した。今年はビオトープ500m周辺の田圃が経済的に合わない為稲作を止められて分散していたイナゴがビオトープの田圃めがけて集中して来た。

農薬を散布すれば労力と薬代は必要とするが一件落着する。しかし自然環境の破壊、特に近辺に生育しているトンボの幼虫やその他水棲昆虫・メダカ類等々死滅してしまう。

将来の事を考えるなら稲作体験が必要でもあり、自然を守ることでも必要であり、どちらを推進するか、ここにきて大きな問題となった。

5. 親子自然観察隊 「水棲動物観察」

①. 須賀河内川：川登り組 （関根 雅彦 記）

梅雨明け猛暑の8月3日、季節にピッタリの川の探検です。子供15名はヘルメットと救命胴衣をつけ、網を持ち、保護者7名、スタッフ4名とともに東屋の横から川に降ります。川底は7月下旬の豪雨でたっぷり砂がたまり、魚はあまり見えません。それでも小さなカワムツはすぐに捕れました。いつもヨシノボリが良く捕れる岩場は、ごく小さなものが少し捕れただけ。ヨシのトンネルを潜り抜けて最初の堰に到着します。堰下の淵では15cmぐらいの大きなドンコが見えましたが、残念ながら投網では何も捕れませんでした。子供たちはここで全身ずぶ濡れ。水の冷たさに喚声をあげながら堰の石組みを登ります。堰の上はしばらく砂底のトロが続き、カワムツやスジエビ、ヌマエビが捕れました。次第に礫底に変わってヨシノボリなどを捕りながら父滝へと進みます。父滝の深い淵で投網を試みますが、ここでも収穫なし。子供たちが投網より先に淵に入って泳ぎ回ったからかな？一昨年までは大人でも難しい滝の左岸側のルートにロープをかけて登っていましたが、昨年からは右岸側のルートが開拓され、子供たちも少し苦労しながらもロープなしで登っていきます。落ちる子供もいましたが、淵が深いので平気！全員無事に父滝を通過して母滝に向かいます。母滝ではスペシャルサービスで上部の堰板が外され、激しくなった流れのなかをワイワイ登っていきます。滝が楽しくなったかわりに、母滝上の砂底のトロが浅瀬になって泳げなくなってしまったかな？このあたりではヨシノボリやヌマエビ、サワガニ、オオヤマトンボ・コヤマトンボのヤゴなどが捕れました。いよいよ林間の溪流部に入っていきます。石の間の砂が洗い流されて、思わぬ深みに足をとられます。今年はこのあたりでカワニナが多く見られました。来年のゲンジボタルの発生に期待がかかります。意外だったのは、岩の間のちょっとしたくぼみでスジエビがたくさん捕れたこと。上流のヨシ原から流されてきたのでしょうか。カワムツやドンコを捕りながらゴールし、みんなで記念撮影です。道を歩いて東屋に帰ると、ビオトープでは罨をつかって大きなカワムツがたくさん捕れていました。

全体に、楽しい活動でしたが、昨年にも増して魚種が減ったのが大変気がかりです。その後の目視観察では、カマツカとモクズガニが草原ゾーン横の淵で見られましたが、オヤニラミ、アカザ、ムギツク、イトモロコ、シマドジョウなど、とても良いと思われる魚は捕れず、遊

泳魚はカワムツだけになってしまった印象です。河川環境の多様性を高める工夫が必要かもしれません。

②. ビオトープ：居残り組 （菅 哲郎 記）

今日は大変暑い天気で、国道沿いでは32℃となっていました。ビオトープでは10：00～12：00までの気温は28℃でした。子供隊員、ジュニア隊員、父兄、山口大学学生、一般参加、会員など40名の参加があり、思った以上にぎやかな観察会となりました。

親子ともども川の探検にも慣れ、全員泳ぎのできる服装で決めてきました。2家族4名だけが川登に参加せず、近くの川や水田側溝で魚やカエルを採って遊んでくれました。全員が探検に出かけた後、居残り組として川の中にわなを仕掛け、魚を採集しました。3か所にわなを仕掛け、10頭ほどの魚をゲットできました。思った以上に採れたようです。しかし、残念ながら魚種は1種（カワムツ）だけでした。

川の探検より帰ってきたあと、魚の同定を行いました。しかし、年々魚種が少なくなっており、心配されました。採集できたのはカワムツ、ドンコ、ヨシノボリそれにカワニナとヌマエビなどで、以前採れたオイカワ、ムギツク、オヤニラミなどが全く採集できません。ただ、カマツカだけは下流の深場で2頭目撃していますので、大丈夫なようです。

お昼にはカレーとスイカが出されました。カレーは48人分作りましたが、ほぼ完食でした。スイカは氷で冷やしておいたので、暑い体にはとてもおいしくいただきました。猛暑の中、事故もなく無事行事を終えることができ、安心いたしました。ご父兄の皆さま、スタッフの皆さん、ご苦労様でした。



探検隊の勢ぞろい



深い淵と高い崖で難航です



最後に採れた魚の同定を行いました



お昼ご飯は「カレー」でした

親子自然観察隊の感想

★溝邊寛人

とても楽しかったです！今年はオイカワを捕まえるのことができなかったのですが、来年は増えているといいなと思いました！

★溝邊義人

楽しかったのですが、来年が今から楽しみです！

★溝邊睦

川遊びは楽しかったです。魚のお家を作って遊びました！

★溝邊（母）

今年も楽しそうな子供の姿が観れて良かったです！川遊びする楽しみや魚を捕まえる楽しみを存分に楽しめる1日となりました。ありがとうございました！

★有吉遼

魚の取れ方で川が年々変化していることが、わかりました。冷たかったけど、ビオトープでの活動の中で一番楽しかったです。

★有吉(母)

今年は子供の感想を聞いて、川の変化も考えることができたようで嬉しく思いました。カレーもとても美味しかったです。ありがとうございました。

6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」（管 哲郎 記）

(42) ミズスマシ *Gyrinus japonicus* (甲虫)

昔はゲンゴロウと並びたくさん見られた水生昆虫ですが、現在は水田農薬の関係でしょうか、見られることがめったにありません。しかし、ビオトープでは無農薬で維持されている関係か、春先には可愛い姿が見られました、5～20 mmほどのゲンゴロウのような黒い色をした甲虫ですが、通常は6 mm前後の大きさのようです。

北海道から九州まで幅広く生息しており、水面を滑るように円を描いて泳ぎます、水面に落ちた昆虫などを捉え、体液を吸います。



波紋を立てながら泳ぐミズスマシ



ミズスマシ

参考文献

海野和男、2013. フィールドガイド身近な昆虫識別図鑑. 254pp. 誠文堂新光社. 東京.

7. 会よりの連絡事項

1) 「里山ビオトープ二俣瀬」創設20周年記念「プレ」イベント進行状況

今年秋の親子自然観察隊行事にあわせプレイベントを実施しますが、予算水車修復準備等現在までの進行状況を報告します。

イ) プレイベントの助成金 “やまぐち元気生活圏活力創生事業” から二俣瀬コミュニティ推進協議会を通じて8月1日付けで決定し契約完了当会の通帳に降込まれます。

ロ) 支払金としてその内訳

1、水車の修復で金属主軸部のハブ部取り外し、修復・再設置8月22日完了予定
工事費+提供備品軸受ベアリング購入

2、木造部材料 工事業者にて腕木材購入予定

ハ) 備品の購入は「アスワン山荘」寄贈金にて

来年度のイベント本番に東屋附足しテント設備と長机5客分を計画しています。

8. 編集後記 (若林 正治 記)

今年の夏も暑い中ビオトープ維持管理、皆様お疲れ様です。お盆も過ぎ、ほんの少し日差しも弱くなった気がします、しかし湿度が高いのでまだまだ熱中症等気が抜けません。

最近ニュースで残念な話題が多いですね。あおり運転もそうですが、日韓関係も最悪な状態に思えます。国同士の問題も他国があおって兵器で金儲けしてるのでは無いかと思っています。そしてビオトープの問題ですが、水車問題が解決出来そうですね。新しい水車が回るのが楽しみです。